

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 獣医学科

職階 准教授

氏名 市原伸恒

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

獣医学科基礎獣医学系の教員として、獣医学科1,2年次の獣医解剖学分野に関する教育活動を中心に行っている。獣医学科1年次の【獣医解剖学Ⅰ】、【獣医解剖学Ⅱ】及び【獣医組織学】、獣医学科2年次の【獣医解剖学実習】を担当しており、加えてアドバンス科目である【臨床解剖学】の講義や、【獣医学特論】のゼミ活動、【卒業論文】での論文作成の指導を行っている。また、令和6年度からは獣医保健看護学科1年次の動物形態機能学に関する講義・実習を担当しており、大学院では、獣医学専攻の科目である【獣医解剖学演習】および【獣医解剖学特別実習】を担当している。これらの授業において獣医解剖学分野の専門知識を教授することに加え、どのような職域に進んだ場合においても、獣医師あるいは愛玩動物看護師として高度な専門職業人としての実践力を発揮できる人材の育成を行うことが、教員としての責務であると考えている。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
獣医解剖学Ⅰ	獣医学科	必修	1	157
獣医解剖学Ⅱ	獣医学科	必修	1	166
獣医組織学	獣医学科	必修	1	181
獣医解剖学実習	獣医学科	必修	2	135
臨床解剖学	獣医学科	選択	4	61
獣医学特論Ⅰ	獣医学科	必修	5	7
獣医学特論Ⅱ	獣医学科	必修	6	1
卒業論文	獣医学科	必修	6	1
総合獣医学	獣医学科	必修	6	155
動物形態機能学Ⅰ	獣医保健看護学科	必修	1	90
動物形態機能学Ⅱ	獣医保健看護学科	必修	1	85
動物形態機能学・臨床検査学実習Ⅰ	獣医保健看護学科	必修	1	81
獣医解剖学特別演習Ⅰ	獣医学専攻	選択	1	2
獣医解剖学特別実験Ⅰ	獣医学専攻	選択	1	1
獣医解剖学特別演習Ⅲ	獣医学専攻	選択	3	1

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

獣医学教育とは、学修すべき科目の内容が、個々に独立したものでなく、すなわち、1つの科目の履修を終えれば、その科目の内容に関する学習が完結するものではなく、体系づけられた教育、言い換えれば、重複する内容を含む科目の、順次性をもった学修成果の積み重ねにより成立するものと考えている。低学年での学びが、上位学年に配当されている科目の深い理解につながるため、低学年の科目である獣医解剖学分野の教育では、6年間におよぶ獣医学教育を受けるための、確実な基礎固めが重要であることを常に念頭に置いている。獣医解剖学分野を中心とした低学年の学生教育を通して、高学年の授業を受講する際の学習効果をより高いものにすること及び獣医師国家試験に合格する学力を教授することに加え、表面的な文言の暗記だけにとどまらず、履修内容に、多方面からの視点（例えば、肉眼解剖学的な視点だけでなく、系統発生的な視点や、機能的な視点など）を交え、本質的に理解させる教育を行うことで、実践力の高い、問題解決能力のある人材の育成を目指している。さらに、卒業後の社会活動においても、まずは基礎や基本となることを十分踏まえた上で、より高度なことを実践するという考え方を身に付けた人材の育成を目指している。以上のことは、国家資格である愛玩動物看護師の教育課程についても同様である。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

教育の理念を実現するためには、教員自身が、担当する授業の履修内容と、高学年での科目の履修内容との関係を常に把握していることが重要であると考えている。特に高学年での科目の履修内容は、新しい知見や技術の進歩により変化するものが多いことに留意している。解剖学分野の授業内容に関わるような高学年の科目の教科書や、獣医療に関する新しい知見や最新技術に関する記載のある書物や文献を精読することで、解剖学分野の授業内容が、高学年で学ぶ科目の中で、どういう位置付けがされていて、何が重要視されているかを確認して、その内容を授業に組み込むことを心掛けている。低学年で学ぶ履修内容と高学年で学ぶ履修内容の関連を授業内で学生に伝えることで、基礎的な知識の積み重ねが、より応用的なものごとの理解や、幅広い視点をもつことの重要性を理解することにつながると思っている。また、獣医師国家試験及び愛玩動物看護師国家試験の出題傾向を踏まえ、頻出項目については、授業内で国家試験の過去問題を示しつつ、重点的に教育を行うことに取り組んでいる。重要視している点は、単に知識を頭に入れるだけの作業になりがちな解剖学教育において、意識して、図や写真を多用することで、二次元的な理解から、三次元的、すなわち立体的な構造のイメージにつながるような工夫をして、単なる記憶だけでなく、なぜ、そのような構造なのかということを理解させることで、応用力をもたせるような教育を実施することを心掛けている。また、高校で生物を履修していない学生を考慮して、高校の生物の履修内容も振り返りつつ、授業を行っている。高校の授業内容については、既に履修済みの学生もいるため、単に高校の生物の知識の振り返りだけでなく、高校の生物をもとにした解剖学教育を展開して、続けて上位学年での履修内容を関連付けて紹介することで、高校で生物を履修した学生にも興味をもたせることを心掛けている。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

無

単位数内の限られた時間で、教員-学生間のディスカッションや学生間のグループワークなどを行う時間を確保することができず、今後の課題であると考えている。

(2) ICTの教育活用

有

ICTの教育への活用として、Learning Management System であるAzamoodleを用いた教材配布や課題提出、小テストを行い、また、Google meetを使用して授業を録画した授業動画を復習用教材として配信した。加えて、多くの知識を身に付けなくてはならない獣医解剖学講義では、ドリル機能を有する実践の試験機能を活用してアウトプットの機会を設け、学生自身による理解度チェックや授業内容の重要項目の再確認を行える環境を整備した。また、獣医師国家試験対策の科目である総合獣医学では、獣医解剖学講義と同様に実践の試験機能を用いて、獣医師国家試験に向けての基礎知識の確認チェックの場を提供することで、インターネットが使用できる環境であれば、いつでも、どこでも国家試験対策の学習ができる環境を整備した。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

A

履修生の好奇心をそそるような内容（例えば、動物に関わることで、日々、目にしていることや、しばしば遭遇するような事案など）や高学年でも役立つような臨床的な事項を交えた授業を、意識して行った。また、教科書以外の図や写真を、可能な限り、多く使用するよう心がけ、履修生が履修内容（動物体内の構造）を、立体的にイメージしやすいような工夫をした。授業スライドでは、努めて、文字サイズが48pt以上の大きな文字を使用し、1枚のスライドでの文字数を減らすことで情報量を少なくし、見やすくすることで履修生の集中力を高め、理解を深める工夫をした。配布プリントの作成時には、行間を広くすることで、メモを記入しやすい工夫をした。授業の際には、特に重要な事項については、繰り返し（反復して）伝えるように心掛けた。また、意識して、授業中に国家試験の過去問題を提示して、必要とされる知識のレベルを確認できるように努めた。

(2) 学生の理解度の把握

B

実践：試験機能を用いた理解度チェックを実施しているが、義務付けては無く、また、成績評価に加えていない。そのため、実践を活用しない学生の理解度の把握には至っていないが、実践を活用している学生に関しては、実施状況や理解度（正答率）を定期的にモニターして、理解度の把握に努めた。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

A

実践：試験機能を用いて、毎回の授業後に、授業内容に沿った問題を設定することで、学生自身による理解度チェックができるようにして、自学自習を促した。また、オリエンテーション時には、授業内容の理解が難しい際に、履修生が自学自習しやすい、教科書よりも平易な書物を、複数、紹介して、活用を促した。

(4) 学生とのコミュニケーション

A

メールでの対応や、研究室に来室しての対応など、履修生が望む方法で対応できるようにして、コミュニケーションをはかった。

(5) 双方向授業への工夫

C

授業評価の結果を授業に反映させる範囲にとどまっている。

(6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

A

担当している主要な必修科目（獣医師国家試験に出題される分野）の配当学年が初年次（1年次）ではあるものの、授業内で、授業内容に関わる獣医師国家試験の過去問題を示し、獣医師国家試験の頻出問題であることを紹介するなどして、低学年から獣医師国家試験に対する意識付けを行った。また、6年次後期配当の総合獣医学では、獣医解剖学の頻出ポイントや重要項目を整理して、授業を行った。加えて、授業を補う意味で、実践：試験機能を設定して、基礎的事項の確認チェックを行える環境を整備した。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

これまでの獣医解剖学の授業評価で寄せられた意見のうち、改善の必要があると考えられたものは、1)授業の進み方が早い、2)覚えることが多すぎる、の2点であった。1)については可能な限り、メモを取る時間に余裕が出るように間を取るようにした。2)については、多くの授業内容の中で、特に重要なポイントを示す、また、重要度について優先順位を示すように心がけた。

(2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

授業評価アンケート結果を踏まえると、同様な意見は徐々に減少していると考えられる。

(3) (2)を踏まえた次年度の取組

引き続き、示説の方法やプリントの体裁、重要な事項の明示や優先順位付けに留意していく。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

日々の学習において、学生自身が履修内容の理解度を把握することが困難であることを踏まえ、到達目標に達しているかを自己診断するために、実践：試験機能を活用して、履修者の学習ペースに応じて、理解度チェックの試験をいつでも、どこでも使用できるように設定している。引き続き、この取組を行うが、成績向上につながるような実践：試験機能の活用方法について再考して、必要に応じて、実施方法を改良していくことについて検討することを考えている。

(2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組 に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

学生の成績向上に資する教育活動と学生の成果の関係については、明確な指標がなく明らかにできていないが、学生からの評価（授業評価）では、実践：試験機能の活用について評価を得ており、一定の成果は上がっているものと考えている。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

授業改善につながるFD研修会は配信動画視聴も含めて参加している。また、インターネットで得られる情報をもとに、他大学の教員が実施している指導力向上のための取組を積極的に導入することを意識している。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

獣医学における最新の情報の把握に努め、これらの情報を交えた教育を行うことで、短期的には在学時の学修に、長期的には卒後の社会活動にどのように結びつくのかを理解させた上で、基礎的な知識の重要性を説き、問題解決能力のある人物の育成を目指した教育を展開していくことを目標として教育活動を遂行していきたい。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

シラバス、授業評価アンケート、學理や実践、授業で用いた配布資料、スライド資料及び配信した授業動画、学生から寄せられた質問に対応したメール、配信動画視聴も含めたFD研修会の参加記録（受講後のアンケート提出）